

第3回

東京都政策連携団体

経営目標評価制度に係る評価委員会

議事録

令和4年1月6日

東京都総務局 総務部グループ経営戦略課

東京都政策連携団体経営目標評価制度に係る評価委員会（第3回）

日 時 : 令和4年1月6日（木） 午後4時02分～午後4時49分

場 所 : 都庁第一本庁舎13階 会議室（WEB会議開催）

1 開 会

2 議 題

経営改革プランの改訂について

3 閉 会

出席者 : 委 員 上 山 信 一 慶應義塾大学総合政策学部教授
委 員 藤 田 由紀子 学習院大学法学部政治学科教授
委 員 三 田 妃路佳 宇都宮大学地域デザイン科学部准教授
委 員 宮 木 由貴子 第一生命経済研究所ライフデザイン研究部長
主席研究員
委 員 山 田 英 司 日本総合研究所リサーチ・コンサルティング
部門理事

事 務 局 小 野 グループ経営戦略担当部長
三 浦 団体調整担当課長
相 川 グループ経営戦略課長
久 葉 グループ経営戦略課統括課長代理

○事務局（久葉課長代理） それでは、先生方皆様おそろいになりましたので、これより第3回東京都政策連携団体経営目標評価制度に係る評価委員会を始めさせていただきます。

初めに、総務局グループ経営戦略担当部長の小野より一言御挨拶申し上げます。

○事務局（小野部長） 先生方、本年もどうぞよろしくお願ひいたします。グループ経営戦略担当部長の小野でございます。

本日はお忙しい中、お時間を頂戴しまして誠にありがとうございます。委員の皆様におかれましては、日頃から都政に多大なる御支援、御協力を賜りまして、この場をお借りしまして心より感謝と御礼を申し上げます。

また、昨年6月から10月にかけて御意見を頂戴いたしました2020年度の政策連携団体経営目標の評価につきましては、おかげさまをもちまして、昨年11月26日に結果を公表するとともに、12月に行われました第4回都議会定例会で報告をさせていただきました。

この間、コロナ禍を踏まえた各政策連携団体のありようなどをはじめとしまして、貴重な御意見を賜り、誠にありがとうございました。重ねて厚く御礼を申し上げます。

さて、本日は経営改革プランの新年度、2022年度の改訂に係る進め方につきまして、委員の皆様のお意見を頂きたいと考えてございます。経営改革プランの改訂によりまして、プラン策定時以降の状況の変化、これを戦略への確に反映しまして、政策連携団体それぞれがさらなる経営改革を進めていかれますように、本日もぜひ忌憚のない御意見、御助言を頂戴できればと思っております。どうぞよろしくお願ひいたします。

○事務局（久葉課長代理） それでは、まず初めに、委員会の実施方法について御説明をいたします。

本日の会議はWEB会議システムを活用して、委員の皆様にはリモートによる参加をいただいております。対面ではございませんので、委員の皆様をこの場で御紹介させていただきますと思います。

慶應義塾大学総合政策学部教授、上山委員でございます。

学習院大学法学部政治学科教授、藤田委員でございます。

宇都宮大学地域デザイン科学部准教授、三田委員でございます。

第一生命経済研究所ライフデザイン研究部長主席研究員、宮木委員でございます。

日本総合研究所リサーチ・コンサルティング部門理事、山田委員でございます。

続きまして、都側出席者を紹介いたします。

先ほど御挨拶をさせていただきました、総務局グループ経営戦略担当部長、小野ござい

ます。

- 事務局（小野部長） よろしくお願ひいたします。
- 事務局（久葉課長代理） 総務局総務部グループ経営戦略課長、相川でございます。
- 事務局（相川課長） よろしくお願ひします。
- 事務局（久葉課長代理） 総務局総務部団体調整担当課長、三浦でございます。
- 事務局（三浦課長） 本年もどうぞよろしくお願ひいたします。
- 事務局（久葉課長代理） 最後に私、司会を務めます、グループ経営戦略課、久葉でございます。どうぞよろしくお願ひいたします。

なお、木下公認会計士事務所、木下委員につきましては、本日御欠席の御連絡を頂いております。

続きまして、本日の委員会の公開に関する取扱いについてでございます。本日の会議録につきましては、委員会設置要綱に基づきまして公開することといたしたいと存じますが、御異議ある方はいらっしゃいますでしょうか。

ありがとうございます。それでは、御異議ある方はいらっしゃらないということですので、本日の会議録につきましては公開することとさせていただきます。

それでは、次第に沿って議事を進めてまいります。

議題、「経営改革プランの改訂について」、団体調整担当課長の三浦より御説明させていただきます。

- 事務局（三浦課長） 三浦です。よろしくお願ひいたします。

資料は7枚組となっておりますが、主に御確認をいただきたいのは5枚目、6枚目のヒアリングの進め方や追加提出資料等々になりますので、よろしければ資料につきましては通しで説明をさせていただこうと思います。

まず、資料の1ページ目でございますけれども、今後のスケジュールの全体像になってございます。表中の青い部分が今回の経営改革プランの改訂の部分でして、第3回評価委員会が本日です。団体へは既にプラン改訂の作業依頼を今月の14日を締切りとして、今、作業を進めているところでございまして、事務局で内容等を確認した上で、資料上では調査となっておりますが、団体とのヒアリング・意見交換を今後実施していただく予定としております。

ヒアリング・意見交換の予定は2月7日から14日までのとさせていただいておりまして、先生方に御参加いただく日程につきましては、現在、最終調整中でございます、極力早期

に御連絡を差し上げたいと考えております。

この意見交換で頂いた意見を踏まえまして、各団体、局において改訂内容の修正を行いつつ、並行して委員意見の取りまとめを事務局のほうで行いまして、3月の下旬に実施する第4回評価委員会において団体別の改訂内容、それから、評価委員会としての意見を固めてまいりたいと考えております。

その後、評価委員意見を公表しまして、改訂後のプランは冊子としてまとめ、今年の5月頃、都議会の報告時期に合わせて公表を行うといった運びとさせて頂くことをとっております。

なお、オレンジの部分につきましては、今年度の取組状況の評価について、と先の話になりますが、参考としてお示ししているものです。

次に進みます。2ページ目ですが、こちらは団体へそのプランの改訂作業依頼をするに当たり、改訂の考え方をまとめたものを転記したものです。改訂の視点として、視点の1番目、(1)としまして、まずは先般の2020年度評価のヒアリングの際に頂いた委員の皆様からの意見をきちんと踏まえられているか。加えて、(2)として、第2期プラン策定作業からは1年経過しておりますので、主にこの①から④番について、(1)の委員意見と多く重複いたしますが、都政の動きも踏まえ、現在の戦略や個別取組事項について不足がないか、最後に(1)(2)通して不足がないか確認をし、個別取組事項については積極的に、戦略単位の見直しや新設についても必要に応じて改訂を実施するといった形で各団体、局へ依頼をしているところです。

続きまして、3ページ目です。各団体からは提出予定の様式ということで、現行とそれから改訂後のその相違点分かるよう、また、改訂の考え方も分かるように、所定の様式を用意しておりまして、これを記入して提出するように求めています。意見交換時はこの資料をベースとして御意見をいただく形が基本となりますが、主に御意見いただきたい点は右下に囲いで記載をさせていただいております。

このうち、今のところ該当は1団体のみと聞いておりますが、経営改革目標について新設ですとか、それから事業執行目標からの区分変更を考えている場合には、昨年同様、それにふさわしい内容であるか等々、重点的に御確認をいただきたいと考えてございます。

続いて、資料4ページ目です。今回の委員会資料につきましては、全て公表資料ということで整理をしておりますが、客観的に見た場合、経営改革目標の説明がないと議論の内容が分かりづらいと思ひまして用意をしたものでございます。

改めて経営改革目標とはということで、第2期プランから導入したのですが、視座の高い戦略になっているか、改革の取組を前進する内容になっているか等の視点が踏まえられたものに対しては、これを経営改革目標として区分し、それ以外の戦略については全て事業執行目標として区分をするといった形にさせていただいています。

経営価格目標は、評価の際に取組状況に応じて高評価を付与することとし、チャレンジ精神を引き出す自律的な改革を促すものとしておりまして、繰り返しになりますが、経営改革目標にふさわしい内容であるか、評価委員会の意見を踏まえて決定をする形という形にしております。現行のプラン内容ですと、今、6団体・6戦略がこれに該当するといった形です。

続きまして、5ページ目、「評価委員による調査（意見交換）（案）」ということでございまして、今後のヒアリング・意見交換の進め方についてまとめさせていただいています。特に目新しい内容はございませんけれども、委員の皆様と団体会のどのような意見交換が行われているかが分かる資料が対外的にあったほうがよいと思ひまして、用意をしたスライドになります。

対象としましては、7月に独法化により政策連携団体から外れ、別途目標管理等がなされる保健医療公社を除く全ての団体を対象に今回もWEB会議にて実施をしたいと考えております。時間は1団体当たり20分を基本にしまして、経営改革目標やその他詳細を確認すべき事項がある場合については25分といった形にさせていただき、説明資料につきましては、先ほどのその様式で御説明しました改訂の様式と、それから次のスライドで御覧いただきます追加資料を中心に団体側からの説明をいただきまして、資料は事前に委員の皆様にお渡しすることとし、質疑応答を中心に意見交換を進めていきたいと考えてございます。

資料の6ページ目ですが、「意見交換時追加提出資料（案）」ということで、これまでの委員の皆様との議論から、細かくなりますけれども、記載の資料が意見交換の際に手元にあるとより議論が深まると考える追加資料の一覧でございます。

次のページに、参考としまして、10月の評価委意見で掲載しました現在の団体類型を示しておりますが、この類型を念頭に置きまして、赤オレンジの財務モニタリングが必要な団体については夏同様に財務資料を中心に追加の提出を求める、黄色オレンジの特定課題のある団体については夏のヒアリング等で議論になった事項を中心に、青の戦略等のモニタリングが継続して必要な団体は経営改革目標を多く持ちますので、それを中心に、グレーがかった、この4つ目のカテゴリーの団体も今夏のヒアリングで個別具体的に議論になった事項があればそれを抽出しております。

また、次のスライドにまた戻りますが、アプローチの視点として整理させていただいたもののうち、「財務構造における中長期的な課題の有無」ということで印が付いている団体につきましては、類型にかかわらず、財務系の戦略の重点的な説明を求めたほうがよいものと考えております。

加えて、小さいですけれども、資料の表頭にございますように、委員意見の対応状況に係る説明資料等は全団体へ積極的な提出を求めるといった形にさせていただこうと考えております。

なお、中にセグメント別の収支状況について提出を求めるような形で記載させていただいている団体もありますが、例えば東京交通サービスであれば発電事業に係る収支ですとか、これまでの委員意見で議論になった部分の状況が分かる内容として、各団体には依頼をしたいという形を考えております。

この内容につきまして、これでよろしければ2月7日から始まる意見交換に間に合うように各団体へ改めて用意をお願いすることを考えてございます。

資料の説明は以上でございまして、資料5ページ目の意見交換の進め方、6ページ目の追加資料を中心に御意見を賜ればと思いますので、どうぞよろしくお願ひいたします。資料の説明は以上です。

○事務局（久葉課長代理） それでは、先生方、本件について御意見、御質問等がございましたら、御発言をお願いいたします。

○上山委員 ヒアリングについてですが、ヒアリングは4人揃う必要はなく、従来ルールとして最低2人と言っていましたよね。

○事務局（三浦課長） そうですね。複数名でお願いをしていたところです。

○上山委員 4人いたほうがいい団体もあるかもしれないし、何人いてもいいと思いますが、私と山田先生と木下先生が割とベテランだから、この辺が入っていれば団体によっては2人でもいいのかもしれない。

○事務局（三浦課長） そうですね、はい。皆様の御都合、それから、団体側も出席の都合等がありますので、組合せによってはそうなります。

○上山委員 はい、分かりました。

ヒアリングについて、いつも言うのは、最近異動でこられた方が過去の経緯や宿題を知らず、用意された祝詞を話されることがあるが、やめていただきたい。過去の経緯を勉強していただくことを徹底してください。

○事務局（三浦課長） 承知いたしました。

○上山委員 理事長が、生の言葉でコロナ後に特に取り組みたいことをおっしゃるのは大歓迎ですが、祝詞を唱えるというのだけはやめて頂きたい。

○事務局（三浦課長） 承知いたしました。改めて、今週中を目途にまた事務連絡を各団体・局へ出す予定としておりますので、その中でも明記をさせていただこうと思います。ありがとうございます。

○上山委員 また宿題ばかり意識して、宿題のみを対応してきたというのも困る。自分で何をやりたいのかどうか、全体的な総括が全くないのも困る。だから、『去年はこういう年で3つのことが進みました、今年はこのことを主にやりたいです。』みたいなトップの宣言があり、それを踏まえ具体的な資料に基づいて説明するのが本当が一番いい。生の言葉で喋るトップがない組織が多いため、なかなかそのようにならないのですが。ヒアリングは、全員生の言葉で喋っていただくというのを目標にしたい。だから、何かこなす感じではなく、団体が喋りたいのであれば自由に喋っていただいてもいい。その辺は事務局が臨機応変にやってください。アドリブ中心で自由に喋ってもらったほうがいい場合もありますので、団体のトップのキャラも見ながらやっていただければいい。

その辺は、各団体のヒアリングに入る前に事務局説明があるかと思うので、そこで踏み込んでやってもらえると助かる。A団体はこの辺が去年宿題だったので、この辺を中心に議論してもらいたいとかB団体は一皮むけたので、事務局的には褒めてもいいと思っているなど、そんな感じでよろしくお願いします。

○事務局（三浦課長） ありがとうございます。そうですね。各日の意見交換会の日程の最初のほうに事務局説明ということで時間を設けさせて頂いておりますが、今先生からいただきました御意見を踏まえまして、当該時間をうまく活用し、効果的なヒアリングが実施できるよう、事務局として対応していきたいと思っております。

○上山委員 やっぱりちょっとフレッシュな意見が欲しいですね。三田先生や宮木先生、藤田先生はそうかもしれませんが我々はずっと同じことを言って疲れたみたいなどころがある。フレッシュな視点から攻めていただくとか我々はできていないと思込んでいるが、意外とこれはやっているじゃないですかとか、新しい委員の方には期待したい。

東京水道のその後はいかがでしょうか。

○事務局（三浦課長） その後につきましては、皆様方にはその御報告も兼ねてというところですが、この間、第2回評価委員会の後、上山先生と山田先生には大変な御助力、御協力を

いただきました。その後、同社からは外部有識者を入れた社内調査に係る委員会を立ち上げると報告を受けております。その後の状況や内容につきましても総務局も注視をしていきたいと考えております。

○山田委員 東京水道の調査はスピードだけを優先しないでいただいて、見るべきポイントや何を見るのかというのは初めに設計をしていただいたほうがいい。

こういった調査の委員会によくあるのが、とにかく何か情報を出せという形で調査をして、何を調査したいのかよく分からないというのが結構ありますので、契約の部分とプロセスの部分と結果の部分について、因果関係を整理することと、いきなり最終報告という形にせず、どこかで中間報告みたいな形にした方が良い。いきなり最終報告にすると、調査の不備があったときに手戻りが多いので、ある程度事実の認定をした段階で一回中間報告をされてはいいかなということ、時間軸を教えていただければありがたいなと思います。調査計画や期間など、そういったところは共有していただけるとありがたい。

というのは、東京水道だけに関して言うと、IT事業の今後の方向性という重要な経営課題がそれにより変動するかと思いますので、そこを除いたところで次の戦略のところを議論するのか、それともその議論も含めてするのかというところは整理をしていただく必要がある。

また、各団体の話になりますが、改訂に関する毎年の傾向として、戦略はつくらないといけなといった脅迫観念に駆られる団体も結構ありますが、局と団体の役割の在り方ということで、戦略はなく業務を粛々とやる団体というのが当然あるはずなので、そういうところに無理に戦略というような形で作文をしていただく必要はないと思います。

あと、過去にあった戦略が連続した線上にあるということもないと思いますので、戦略として通用しなくなったものについては、外していただいてもいい。これだけ変化が早いので、新しく戦略が必要になってくる可能性もあると思うので、もうこの戦略はボツになって、新しい戦略に変えますというのであれば、そこをまずはっきりしていただく必要があるのかなと思います。

あとは、宿題のところ色々財務的なものの報告をお願いはしておりますが、立派な資料を作ることが中心になって、どういった収支の構造改革をやるかなどの議論が抜けていることが多いので、資料はあくまでも、どういうふうな改革をしていくのかというところの附帯資料であるということを念頭に、資料を検討していただく必要がある。なので、円単位でびっしり揃っている必要は全くないので、何を自分たちがしたくて、それを財務の面から見る

とどういう課題があって、それをどういうふうに解決していくのかということを確認にするという意味で宿題が出ておりますので、その辺は事務局でフォローアップしていただければと思います。私からは以上です。

○事務局（三浦課長） ありがとうございます。今頂きましたお話、全て貴重なものだと思いますので、改めて該当する団体、全団体に対しても改めて連絡をしておきたいと思います。ありがとうございます。ほかに御意見はございますでしょうか。

○宮木委員 宮木です。私は今まで中小企業さんの評価のお仕事などは経験がありますが、前回初めてこういった調査に携わらせていただき、いろいろ勉強させていただきました。ただ、あまりに資料が多く、直前で頂いた資料を全部読み込めていなかったりと、不手際があって、なかなかきちんとしていけてなかったように思います。例えば資料なども、継続されている先生方は色々お分かりかと思いますが、私のような新参者はどれが古くてどれが新しい情報なのかよく分からないところもあったので、事前にハイライトの部分のところだけ教えていただけるとありがたいなと思いました。

それから、今民間企業は非財務的な価値をどう見える化して組織を改革していくかということについて、非常に力を入れてやっているのですが、団体は全体的にミッションやビジョンみたいなものがまず組織として打ち出されておらず、改革への熱の低さを感じました。今年何をやりますとか今何に取り組んでいますみたいなところを伺えると、こちらとしても、もう少し組織に対する愛着がわき、何とかしなくてはみたいなものが出てくるのですが、何となく毎年こんな感じでやっているのかなと思える団体さんもあって、中々熱が感じられませんでした。

そういう意味で、資料2ページの④ですね。私は、この「シン・トセイ」にあるような従業員満足やエンゲージメントというところに今取り組んでいまして、そこが組織を生き残らせるとか、成長するとか、持続性を高めるというところで一番大事だと思っています。それが例えばお休みを取らせるとか、リモートワークにするとか、そういった抜本的な改革ではない表面的な対策のみをしているように見えました。民間企業は、今すごくそこに注力して、人材を確保するとか、何とか人を壊さず、人を辞めさせず、みたいなのに取り組んでいる中で、団体ももう少しそういうところに注力してもいいのではと感じます。民間企業に学ぶと言ったらおこがましいですが、今すごく改革に力を入れている民間企業もあるので、そういうところの風みたいなものをもっと取り入れるような、例えば情報共有だったり、セミナーや勉強会だったりとか、そういうところを入れていったらどうかなと感じました。

従業員のウェルビーイングは、組織の生産性を上げるというところで注目されていますが、それは単にお休みを取ったからどうか、家で働いているからDXが進んでいるとか、そういうことではないと思います。もう少し根本的なところの改革に注目して、何をやったかではなく、ミッション・ビジョンみたいなところから方針を見せていただくと、こちらも熱を持って、じゃあ、具体的にどうしようかとなるのかなと感じました。

難しいのは、非財務なところの見える化で、そこを色々みんな模索しています。目に見えない非財務の部分の組織の価値をどのように打ち出していくのかみたいなのも、重要です。もちろん財務の部分は大事ですが、組織の価値はそれだけで決まるものではないと思っています。雑感となりますが、以上です。

○事務局（三浦課長） ありがとうございます。そうですね。ウェルビーイング、セミナーの関係につきましてもそうですね。今回の改訂の内容を踏まえながら、総務局としても団体、を横串通して何をやっていけるかですとか、そういった観点でも見ていかなければならないところかとも思いますので、引き続き団体の状況を確認しながら、総務局としても考えていきたいと思います。ありがとうございます。

○上山委員 今の話はすごく大事なことで、都政改革本部をつくったときも、しごと改革などを設定しましたし、その後、世の中がワーク・ライフ・バランスって言い出したのですが、団体も都庁も現場のない仕事結構多い。そういった部署の生産性は、楽しいとかやりがいとか社会的意義とか、そういったもので全然違ってくるので、何か指標などを設定してみても良い。

この委員会の仕組み自体はどちらかというと、無駄なお金の使い方のチェックや組織全体のPDCAからスタートしました。委員会立ち上げの最初の1・2年は、お金のところから攻めることに意味があったり、必要な戦略が無いといった感じで始まりましたが、最近は団体もあるべき姿が分かってくる。ただ、動きが遅く、何をすべきか分かってくるが、どのようにすべきかが分からないように見える。分からないのは恐らく一部の幹部だけが紙の上で物を考えていて、民間出身の現場のプロパーや中途採用のフレッシュな情報を取りにいないとか、あるいは、そういう人たちのモチベーションが低いとか、何かそういうことが起きている感じがする。組織の活性化みたいな軸は、総務局のほうから横串として入れて、その軸で競争してもらおうと良いかもしれない。どういった方法がいいのかは分からないが、民間企業だとES評価やアンケート調査や、場合によってはヒアリングなどを行っているのですが、団体だと特にプロフェッショナルな人たちがいますよね。そういった人たちのモ

チベーションみたいなところは、横串を通してみると面白いかもしれない。

団体の存在意義は、何かプロの人たちがたくさんいるということだと思う。もちろん、役所からすると組織としてこの団体を通すと契約が楽になるとかの意味もあるが、プロフェッショナル集団としての活性度みたいなことについては、今後の新しいテーマにしていってもいいかもしれない。しかし、テレワークの比率や男性育児休暇の取得率などばかりになってしまうと困る。

今この委員会のシステムは割と有効に機能していますが、逆に言うと、ここで取り上げないとほかのことはやらないみたいになってしまう習性がある。そこら辺は現場はどうなんでしょうね。現場のプロは楽しく仕事していますかね。

○事務局（三浦課長）　そうですね。聞くところによりますと、やはりそれぞれその団体は専門性があり、その中から活躍をされていますので、意義のある仕事として取り組んでいるというふうな話は聞いているわけですが、どうですか。

○事務局（小野部長）　前回も出ていましたけれども、団体の中にはやはりそのエンゲージメントは非常に重要だと言っているところもございますし、そこまではまだまだのところもあるかと思えますので、そういう声をヒアリング・意見交換の場でもぜひ言っていただければと思います。団体によってかなり差があるかなという印象は受けてございます。

○山田委員　その点に関して、ビジョンやミッションは局と団体の関係というのを硬直化・固定化させないというのがあって、状況の変化によって局と団体の役割を変えているはずで変えるべきところがあると思いますが、活用戦略という1冊の本になってまとまっている以上、局も人事異動があり団体も人事異動があると、何かあの冊子が金科玉条のようになって非常に硬直的になり、エンゲージメントとかそういったところまで全然たどり着かない部分があるように思える。当然状況が変わると組織の在り方やミッションは変わるので、先ほど宮木先生が言ったように、ミッションを毎回その局と団体の担当で議論していただかないと、毎年書き物になってしまうのかなと思いますので、そのプロセスは事務局のほうから御指導いただいたほうが、言ったものにより近づくかと思えます。

限られた時間の中で大量の資料を作ったり、調整をしなければいけないという、団体の御苦勞は分かりますが、逆にそれが中心になると、何となくこちらがもう想定された資料のとおり運ぶ形になるので、多少議論に穴があっても、そこを我々と議論することで何らかの気づきがあるということのほうが重要だと思っていますので、ここ何年間かでこの団体というのはどういう位置づけであり、これからどういう位置づけになっていき、ビジョンやミッシ

ョンが変わることがあるのかというところを整理した上でないと、何かK P Iを作ってもそれは通り一辺倒のK P Iをやりましたということに終わってしまうので、そこは我々も気にして見ていく必要があるのかなと思います。

○事務局（三浦課長） ありがとうございます。ほかはいかがでしょうか。

○三田委員 私も新参者ということで、前回のヒアリングはついていくのに結構大変だったという印象でした。前回のヒアリングでは、各団体の評価シートの計画と実績を見ていたのですが、結局何ができ、何ができなかったのかというところが非常に分かりにくく苦労したというのがございました。できたものがどの程度できたのかというところが、もう少し分かる形の評価シートがあると、途中から入った人間でも、何をずっと求められていて、この団体はこの課題が残っていて、さらにこうしたらいいのではないかということを考えやすいです。また、その辺について団体としてどのぐらい意識されているのかというのと、元々のミッションをどの程度コンプリートしようという意識を持ち毎回計画を立てていらっしゃるのかという、全体との兼ね合いと、毎回の計画との関係がどのような形になっているのかというのが見えると、議論がしやすいです。

もう一点、本日の資料の2ページ目と6ページ目についてです。2ページ目の③で東京2020大会のレガシーのことを改訂の視点で挙げておられますが、6ページ目の資料では、それに関係する団体についての資料の提出を求めています。都民もすごく注視しているオリパラ関係のレガシーに関して、どう考えているかということに関して、しっかりとしたビジョンを持った資料というのは、作成は求めなくていいのかなというところは気になっているところです。

○事務局（三浦課長） ありがとうございます。

1点目のこれまでの議論を踏まえてどこまで進んでいるのかということが分かるようなものというのは、先ほどの宮木先生からのお話とも同趣旨かと思いますので、事前にお渡しする資料の中で何かしらお示しする、より議論が深まるようなものをできる限り用意をしたいと思います。

あとは、オリンピック関係団体におけるレガシーを活用するといいますが、レガシーを整理して、今後どうやって進めていくのかというところが追加提出資料に入っていないということは御指摘のとおりでございます。今まで頂いた委員意見への対応状況については積極的な資料提出を求めるといふことにさせていただいておりますけれども、一方で、お話のありました点は、重要な視点かと思っておりますので、それに関する何かしらの資料の提出をするよ

うに、明確に関係の団体のほうにはお伝えしたいと思います。

○藤田委員 藤田です。2月のヒアリングの日程が大学の入試や入試関連の会議と重なってしまっていて、参加できる回数が少なくなってしまう、御迷惑をおかけし、大変申し訳ありません。

先ほど宮木先生、三田先生の御指摘で、事務局からも御返答がありましたが、ヒアリングの経緯の把握がヒアリングに臨むに当たって自分自身足りないなと思っていたところで、議事録なども見直したりもしていたのですが、それも中々負担が大きいので、ブリーフィングでその辺のところをコンパクトにまとめていただくと、いいのかなと思います。

一貫して同じ団体のヒアリングに参加できるとは限りませんので、事務局は業務量が多くて大変かと思いますが、経緯が分かる資料を提供していただけると、私も大変助かると思いました。

○事務局(三浦課長) 改めて承知いたしました。実は事務局のほうでもそういった資料というのは、我々も異動してしまうこともあるなど、様々必要性が高いものと私たちも認識をしていますので、今後も踏まえてきちんと作成をして、事前にお渡しできるように進めていきたいと思っています。ありがとうございます。ほかにいかがでしょうか。

○事務局(久葉課長代理) いかがでしょうか、先生方。御意見、御発言でございますでしょうか。

ありがとうございます。それでは、以上で本日の議事は全て終了とさせていただきます。

本日の議事録につきましては、後日、グループ経営戦略課ホームページへ掲載いたします。

以上で、第3回東京都政策連携団体経営目標評価制度に係る評価委員会を閉会いたします。

本日は御審議ありがとうございました。

○一同 ありがとうございました。

—了—